



ほのか診察室

ポリファーマシーとは、「Poly (多い) + Pharmacy (薬)」の造語で、多剤併用を意味します。明確な定義はありませんが、目安は6剤です。6剤を超えると、同効薬の重複や不適切な処方を含んでいるため、有害事象が起こりやすくなります。

●なぜ良くないのか？

- 薬が増える事で、次のような原因となる場合があります。
- 副作用が現れる可能性が高まる
- 医療費が増える
- 転倒や骨折のリスクが高くなる
- 死亡率が上昇する
- 薬の飲み忘れや飲み残しが増える
- アドヒアランス（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること）が低下する

シリーズ 第157話

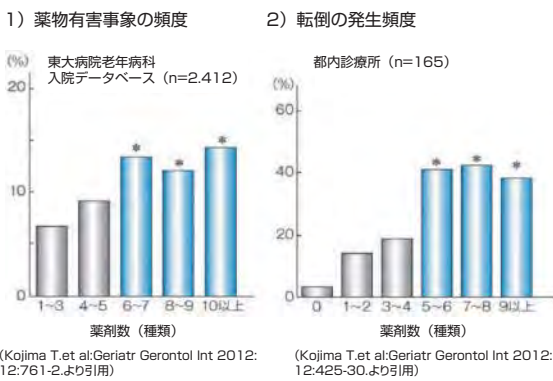
ポリファーマシーをどう存知ですか？

▽市民病院（代表） TEL 22・2171

市民病院 医療技術部 薬局 監修

ID 751376216 (ほのか診察室)

また、入院する高齢者（65歳以上）の6分の1は有害事象によるもので、更に後期高齢者（75歳以上）の3分の1に有害事象が認められるという報告もあります。6剤を境に、内服薬の数が増えるほど有害事象が増え、転倒の発生頻度も増えることが分かります（左図）。



日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」より

他にも平成30年度の院内調査（入院患者の内服薬状況）では、高齢者の4分の1、後期高齢者の過半数が6剤以上を服用していました。

●ポリファーマシーを減らそう！

複数の医療機関を受診し、それぞれ違う調剤薬局で薬をもらっていると、薬の重複や飲み合わせの悪いことに気がつかなかつたり、不適切な薬が処方されたりする原因となります。複数の医療機関へかかる場合は、処方されている薬の内容を伝え、かかりつけ薬局を1カ所とし、お薬手帳の一元化をしましょう。

また、特に整腸剤、アレルギーの薬は症状が改善した後も漠然と長期投与される傾向がありますので、飲んでない薬、余っている薬があれば、受診時に伝えましょう。

当院では入院をきっかけに、薬を整理するように努めています。具体的には、重複している薬、不適切な薬、漠然と処方されている薬は中止し、用法の簡便化や、薬の一包化などを行います。その結果、入院患者対象の院内調査では、退院時に入院前に比べ平均1〜2薬剤数が減少しました。

安心・安全な薬物療法で、本当に必要な薬を正しく使用するには、患者、患者の家族、医療機関、調剤薬局などの医療スタッフ、施設の方、地域の方などの情報共有が大切です。

